

『冒険学校まふゆのキャンプ2023』報告

冒険学校まふゆのキャンプ（初）村長 熊木日向（くまきひなた＝くまちゃん・自然文化誌研究会）

さあ、参加者が来るぞ！初めて村長を務める身としてドキドキしながら出迎えることになりました。キャンプの参加者は7人で、多くがINCHのキャンプ経験者でした。しかし、まふゆのキャンプは初めての子が多く、キャンプ場についた時には、思ったよりも寒かったのか、ジャンパーを着込んでいる子を見かけました。経験者が多いこともあって到着してほどなく焚き火で暖をとってみたい、探索をしてみたいと各々でまふゆのキャンプの様子を伺っているようでした。とても活動的な参加者たちをみて少し緊張が解れました。参加者同士で交流があったらなと思っていますと、初めて参加する子にベテランの参加者が「どうも！」と言、ここで私は大丈夫そうだと思い、また一つ緊張がほぐれました。キャンプをしていくうちにどんどん活動的になる参加者たち。その参加者たちと一緒に楽しみながらもしっかり見てくれているスタッフたち。そんな様子を見て、またまた緊張が解れていきます。それでもずっと頭の片隅に「村長として振る舞えているか」という不安が残っていました。そんな不安も2日目になると、くまちゃんと呼んでいた参加者たちが村長と呼んでくれたことで、スーっと消えていきました。参加者のみんなありがとう！

さて、今回のキャンプから変わったことと言えば、コロナ対策でやめていたログハウスでの就寝をOKにしたことです。参加者たちは自分の寝たい場所で寝る。コロナ前そのものです！私が参加者の時は、ログハウスはA棟しかなく、ぎゅうぎゅうで寝ていましたが、その雰囲気に戻ってきたのを感じてとても嬉しかったです。そんなコロナ以前の雰囲気からキャンプ復活！と感じました。

このINCHのキャンプにスタッフとして参加してからは5年が経ちます。その5年の中で今回のキャンプは、一番参加者に近いキャンプでした。村長として、スタッフとして参加するキャンプでしたが、私自身が参加者になった感覚がありました。この感覚は、参加者を安心してスタッフに任せられると感じたからこそ出てくるものだと思います。コロナ禍のキャンプ運営は、障害が多く、大変な部分も多々ありました。コロナ禍を一緒に乗り越えてきたスタッフだからこそ感じる安心感かもしれません。スタッフのみんなありがとう！

改めて、とてもいいキャンプでした。私自身、経験したことのない村長という役に少し緊張していました。そんななか無事にキャンプを終えられたのは、参加者や事務局をはじめとするスタッフ、みんなのお陰です。本当にありがとうございました。私ごとですが、大学を卒業し、来年度から就職が決まりました。そのことから10年以上参加してきたこのキャンプが遠のくかもしれません。そんななか村長という役を任せてくれて本当にありがとうございました。とてもいい経験になりました。これからもどんな形でもINCHに関わっていきたいなと思っています。社会人、頑張ります！これからもよろしくお願ひします！

